

# 横浜市情報・視聴覚教育研究会

## 全市一斉授業研に向けての取り組み 始動中！

研究会長 渡邊 和也

文部科学省では、平成23年4月に、2020年度に向けた教育の情報化に関する総合的な推進方策である「教育の情報化ビジョン」を取りまとめました。これを基本に21世紀を生きる子どもたちに求められる力を育む教育の実現を目的として、平成23年度より、総務省の「フューチャースクール推進事業」と連携し、「学びのイノベーション事業」を実施してきました。この事業では、全国で20校の小中学校及び特別支援学校を実証校として、児童生徒に1人1台の情報端末、すべての普通教室に電子黒板や無線LAN等が整備された環境で、ICTを活用した教育の効果・影響の検証、効果的な指導方法の開発、モデルコンテンツの開発等の実証研究を進めてきました。

本研究会でも今年度タブレットPCを学習場面に導入しながら、子どものコミュニケーション力の向上をめざしています。スキルアップ部会では、タブレットPC導入に伴い必要とされる環境の整備、授業デザイン部会では、タブレットPCの効果的な活用や思考ツールとしての可能性等々についての取り組みを行っています。

その取り組みの中で留意すべきことは、次のようなことです。

タブレットPCを導入するということは、授業をゼロから作り直したり、一新したりするというものではありません。今までの授業にも、いいところはたくさんあります。今までの授業のやり方に、新しい取り組みを乗せるのです。何でもかんでも、タブレットPCを使わなければと考えるていいのです。紙でやった方がいい活動は今まで通り紙でやればいいですし、「フラッシュ型教材」のように一斉授業で効果のあるICT活用も、今まで通り続けければいいのです。

タブレットPCが特に効果を発揮するのは、子どもの個別学習や、子ども同士の話し合いや教え合いといった場面です。子どものタブレットPCの画面を電子黒板で映せば、すばやく簡単に子どもの意見や考えをクラス全員が共有できます。しかし、よく考えてみれば、こういう活動は今までも行われていました。ノートを持ち寄って子ども同士で話し合いや教え合いをしたり、実物投影機で子どものノートを実物投影機で映してクラスみんなで共有したりしていました。今までの活動が ICT の活用で便利で簡単になっただけで、活動の原理は変わってはいません。今までの授業をガラリと変えようとするのではなく、活動内容は変えずに、活動の手段を新しいICT機器に置き換えるといった考え方です。

今までの授業の課題を解決するために、ICT機器を使えばいいのです。たとえばノートでの学び合いや実物投影機でのノートの共有は、記録が残らないという弱点がありました。しかし、タブレットPCとネットワークを使えば、全て記録が残ります。後での振り返りの正確な資料にもなります。今までの授業を変えるのではなく、ICT機器により便利で効果的な授業にしようと考えています。

12月に実施予定の全市一斉公開授業研究会で情報・視聴覚教育研究部会が、その一端をご紹介できればと思っております。



## 目次

### 特集記事

研究会長あいさつ	1
授業デザイン部会	2
スキルアップ部会	3
夏季特別研修会報告	4

### 発行

横浜市小学校教育研究会

情報・視聴覚研究部会

会長 渡邊 和也

### 編集

紀要・広報委員

東森 清仁

平成26年度 夏季広報誌



## 授業デザイン部会について

近年の学校 ICT 環境は整備が進んできている。しかし、その活用が課題提示型や興味発揚型といった教師主導、児童受け身となるような一斉指導に偏っていないだろうか。21世紀型学力を培う上で、児童の主体的な学びを創造することが不可欠である。

武蔵大学中橋先生は非常に興味深い二つの写真からその示唆を与えてくれた。ローマ法皇を選ぶコンクラーベ2013の同じカットでは聴衆の多くがスマートフォンをかざしている。一人一台の端末、個が発信する時代を象徴している。学校現場は果たしてそのような時代に対応できているのだろうか。

現段階では個々の端末は PC ルームなど限られた空間と時間での扱いとなっている。しかし、近い将来タブレットが導入されるやどのような学習環境となるのか、また我々の授業がどう変わるのか、本年度はその過渡期に入ったと言える。(下段へ)

ICT を活用して 子どもたちのコミュニケーション力アップ！

説得する 納得する 主張する 伝えあう協働学習を通して……

### 授業デザイン部会活動経過

#### 4月 定期総会・オリエンテーション

講演会「ICT が拓く子どもの学び」

武蔵大学教授 中橋 雄先生

#### 5月 合同研修会

「タブレット端末を活用した学習スタイルの体験型研修」

常盤台小学校 東森 清仁先生

#### 6月 会員研究

「イメージマップを活用した集団思考と子どもの見取り」

藤塚小学校 千葉 教生先生

#### 7月 合同講演会

「思考を見える化するタブレット活用」

放送大学 教授 中川 一史先生

## 「思考のプラットフォームとしての授業デザイン」

授業デザイン部会 部長 吉田 圭一

同先生からは、公開授業校2校へのタブレット導入に向け、理論的な示唆もいただいた。特にタブレットの活用は学習者の思考を教材化でき、子ども同士をつなげる利点がある。そうしたことから学びのイノベーションが生まれ、新しい学びの位置づけを重用視すること、教師の授業力の問い直しに迫られるだろう。

こうしたことから我々は子どもたちの思考をどう教材化するか、思考をどう見取って行くべきか、その具体的手立ての必要性に迫られた。

藤塚小千葉先生の研究論文には目を見張るものがあった。同先生のイメージマップを活用した実践では子どもの思考の広がり、深まりを自分で認識でき、可視化できた。教師の見取りとしても有効な手立てであるイメージマップの理論を学ぶことが重要であると考えた。イメージマップを思考のプラットフォームとして情報共有していったらどうなるだろうか。それがもし画像転送で一覧できるシステムがあれば、学びの蓄積として以前のシートに自分が書き加えられたら、それがインタラクティブにできるのが ICT の強みではないだろうか。今注目のタブレット端末や電子黒板に、その可能性を求めるところである。

しかし、いざタブレットを導入するにあたり、いろいろな課題があることも危惧される。放送大学中川先生はシステムとともに、自治体がどのような学びを求めて導入すべきかにも触れながら、タブレット導入に向けたハード面での警鐘を鳴らしてくれたと言えよう。そして、一人ひとりが用いオールインワンとなるタブレットの利便性は、個々のモラルにゆだねられることが大きい。教師が制御しきれない手強いツールであるという。授業のねらいを明確にし、目標達成のために有効に活用していくための授業デザインとはどうあるべきか、今後の研究はつづく。



## スキルアップ部会について

子どもたちの ICT 活用能力や活用の幅を広げるためには、まずは教員のスキルアップが必要です。ICT 機器の環境整備や活用方法、情報モラル教育などについて教員自身が理解を深めることが、子どもたちの ICT 活用能力につながります。そして、活用能力や活用の幅を広げることが、結果として子どもたちのコミュニケーション能力につながっていくと思います。

「教員の ICT 活用能力のスキルアップ」を目指し「教員が学校内の情報機器を日常的に活用し、円滑な運用ができる」ことが、子どもたちのコミュニケーション力アップにつながることを目指して、研究を進めていくことにしました。また、各学校で抱えている悩みを共有し、解決できる場にしていきたいとも考えています。

## 「教員の ICT 活用能力のスキルアップをめざして」

スキルアップ部会 部長 伊藤 裕哉

5月は、スキルアップ部会・授業デザイン部会合同で研修会を開催しました。常盤台小学校東森清仁先生の提案では、パイオニア VC 株式会社の方々のご協力で、タブレット端末を活用した学習スタイルの体験型学習を行いました。どのような状況でどのような授業が行えるのか、実際にタブレットを活用しながら体験することができました。具体的な内容としては、「タブレットシンク」というタブレット用のアプリを使用して、研究会場を教室と考え、教師側の大型画面と児童側のタブレット端末を使用しました。算数や国語などの問題が提示された画面を全員に配信し、全員の解答や考え方を教師側が回収し、大型画面に並べて映すこともできました。最後には、実際の活用場面を出席者で考えました。

6月には、柏尾小学校の高野健一先生の提案、大日本印刷の方々のご協力で、「デジタルペンの活用事例」について、体験やグループセッションを交えながらお話していただきました。体験デモでは、実際に一人一本のデジタルペンと紙を用意していただきました。高野先生からの実践事例や、電子黒板・プロジェクター連携の実践事例などについてもお話していただきました。最後にグループごとに活用事例を考え、デジタルペンで発表しました。

今後、12月に行われる公開授業研究会の指導案検討や、近い将来配備されるであろうタブレット導入の際に必要な環境整備の活用事例の研究を進めていきたいと考えています。たくさんの方のご参加をお待ちしています。



## スキルアップ部会活動経過

4月 定期総会・オリエンテーション

講演会「ICT が拓く子どもの学び」

武蔵大学教授 中橋 雄先生

5月 合同研修会

「タブレット端末を活用した学習スタイルの体験型研修」

常盤台小学校 東森 清仁先生

6月 会員研究

「デジタルペン活用・体験研修」

柏尾小学校 高野 健一先生

7月 合同講演会

「思考に見える化するタブレット活用」

放送大学 教授 中川 一史先生

## 夏季特別研修会報告

神奈川県放送教育研究協議会・視聴覚教育連絡協議会  
合同夏季特別研修会報告

### 【放送教育】

思いを伝え合い、学びを深める放送教材  
茅ヶ崎小学校 岡田 貴彦先生

### 【視聴覚教育】

ICTの強みを考えた授業デザイン  
東汲沢小学校 吉田 圭一先生

### 【情報教育】

情報化社会を生き抜くための情報モラル教育  
鴨志田緑小学校 武井 三也先生

## 「思いを伝え合い、学びを深める放送教材」

NHK 学校放送「いじめをノックアウト」を活用して、昨今社会問題化しているいじめについて、自分の事として考え、みんなで議論することで初めていじめのない望ましい人間関係を築くことにつながると考えた。「いじめをノックアウト」は、子ども達の視点で話し合いが出来るようにつくられていて、放送回ごとに様々な角度でいじめをとらえることができる。そのため、児童の実態と教師の願い、身に付けさせたい力を総合的に考えて、「話し合いが身近に感じられる内容か」「生活において必要感があるか」という視点で視聴回を複数選択した。子どもの実態を考え、視聴する目的を明確にもって意図的計画的に視聴計画を立てていくことで子どもの思いを引き出すことができ、自分の考えをもって話し合いに取り組むことで、互いの共通点や相違点に気付きながら話し合いができた。

## 「情報化社会を生き抜くための情報モラル教育」

近年、情報化社会の進展は日々加速する一方である。子どもたちを取り巻く環境も、年々大きく変化し、小学生が携帯電話を所持し、日常的にインターネットを利用する機会も増えている。一方で、子どもたちの情報モラルが十分であるとは言い難い。情報化社会を生き抜くために情報モラルを育成し、子どもたち一人ひとりが身につけ活用できる必要があると考えた。また、情報モラル教育で「相手意識」を培うことで、日常生活におけるコミュニケーション力の育成にもつながると考えた。情報モラルというと、以前は子どもたちが被害者になる場合を想定した指導が多かったが、現在は加害者にもなり得るという双方向の立場で指導しなければならない。また、保護者へも情報モラルとは何なのかを伝えていかなければならないと感じる。

## 「ICTの強みを考えた授業デザイン」

本提案では、ICT 機器を用いて、教科の学習目標の達成と児童による ICT 活用技術の向上を目指し、授業実践を行った。

単元として取り上げたのは、4年生社会科の「吉田新田」。まなボード、デジタル吉田新田を用いてその概要をつかみ、そして横浜歴史博物館のエドゥケーターの話や中から児童一人一人に疑問点や課題を考えさせた。その後自分で資料を集めて疑問点を調べ、伝えるチカラPRESSでプレゼンテーション資料を作成させ、グループごとに発表させた。

今回の実践では、ICTを取り入れることで学習活動の楽しさを味わい、達成感や自信が生まれた児童が多く見られた。これは学習意欲を持続させることにつながると考えられる。また、プレゼン資料を作成する中で、「より分かりやすく資料を作るにはどうしたらよいか」と意識する児童が増え、生徒同士の関わり合いも深まった。



研究会 HP <a href="http://www.edu.city.yokohama.jp/edu/kenkyu/ra-jst/">http://www.edu.city.yokohama.jp/edu/kenkyu/ra-jst/</a>	横浜市立小学校 情報・視聴覚研究主任様 横浜市立小学校教育研究会 情報・視聴覚教育研究部会長様
<b>メディアワールド</b>	平成26年度 4月号
	【発行】 横浜市立小学校教育研究会 情報・視聴覚教育部会 会長 渡邊 和也

## 研究会からのお知らせ

### 「メディアワールド」

市情報・視聴覚研究会では、活動の内容を広く知ってもらうために各月の活動の内容を「メディアワールド」という広報誌にまとめ、各学校の情報担当の方に配布しています。

取り組みの内容や活動に興味をもった方はぜひお気軽に研究会に参加していただければと思います。

みんなで、楽しく、充実した学びに取り組んでみませんか。

ICT が拓く子どもの学び～タブレット端末の活用～

武蔵大学社会学部メディア社会学科教授 中橋雄先生